

「考え、議論する道徳」への質的転換

「考え、議論する道徳」とは

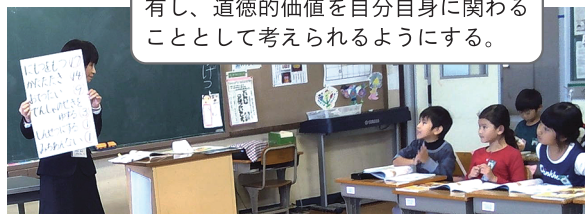
- ・「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。
- ・他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、多面的・多角的な思考を通じて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。

Point 導入：本時の学習へ関心を向ける

●ねらいとする道徳的価値を捉えるため、問題意識をもつ。

- ・生活体験の想起、発表
教材や日常生活から道徳的な問題を見つける。
子供一人一人の実態を把握する。
- ・教材を提示する工夫
ねらいとする道徳的価値を明示する。
主人公等について簡潔に説明する。等

日常生活における子供たちの実態を共有し、道徳的価値を自分自身に関わるものとして考えられるようにする。



Point 展開：多面的・多角的に考える 自分自身との関わりで考える

★展開前段…教材を読んで、多面的・多角的に考える

●道徳的諸価値の理解(価値理解、人間理解、他者理解の3つの理解)を深める。

価値理解：内容項目を人間としてよりよく生きる上で大切であると理解すること。

人間理解：道徳的価値は大切でもなかなか実現できない人間の弱さ等を理解すること。

他者理解：道徳的価値についての感じ方、考え方は一つではない。
多様であると理解すること。

●自分の問題として捉えることができるようにする。

- ・話し合いの工夫

【発問例】「主人公が〇〇の時、どんなことを考えたのでしょうか。」

「自分だったらどうしますか。」

「どうすることが考えられるか。」

「主人公は、どんな気持ちになったのでしょうか。」

「あなたは、どうしてそう思うのですか。」

- ・動作化や役割演技などの表現活動の工夫

【発問例】「どんな気持ちで演じていましたか。」

「演技を見て、どんなことを考えましたか。」

- ・思考を可視化（見える化）した板書の工夫 等

★展開後段…自己を見つめる

●ねらいとする道徳的価値に関わる自分の考え方や感じ方を整理する。

- ・個人で考える場や方法の工夫
- ・書く活動の工夫

主体的に自分との関わりで考え、多様な感じ方、考え方と出会い交流する。

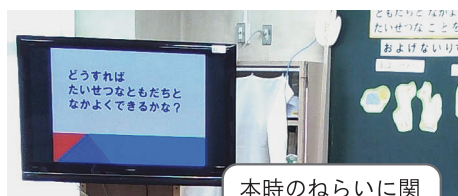
→自分の感じ方、考え方を明確にする。

Point 終末：本時の学習をまとめる

●道徳的価値に対する思いや考えをまとめ、実現することのよさや難しさなどを確認する。

- ・終末における授業者の説話の工夫
授業者の人間性のにじみ出る説話となるようにする。等

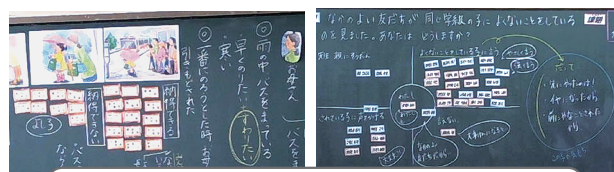
本時のねらいに関する学習課題を提示し、問題意識を持たせる。



互いの考え方や感じ方を伝え合い、他者理解しながら自己理解を深めることができるようにする。



子供たちから出された意見を構造的な板書に示すことで、子供たち自身が自分の立ち位置を視覚的に捉えられ、自己を見つめることができる。



最後には、一人で考え、自己の(人間としての)生き方について考えを深めていく。

様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実現できるような資質・能力を育てる学習とする。